

大会名 Competition	第44回全国高等学校バスケットボール 選抜優勝大会秋田県予選会 女子決勝
No. M-1	Year Month Day Time 2013 年 11 月 3 日 12 : 30
場 所 Place	横手市増田体育館



秋田県高等学校体育連盟
バスケットボール専門部

チーム A	チーム B					
湯沢翔北	秋田和洋					
82 ○	73 ●					
<table border="1"> <tr><td>26 1st 16</td></tr> <tr><td>13 2nd 16</td></tr> <tr><td>26 3rd 19</td></tr> <tr><td>17 4th 22</td></tr> <tr><td>OT</td></tr> </table>		26 1st 16	13 2nd 16	26 3rd 19	17 4th 22	OT
26 1st 16						
13 2nd 16						
26 3rd 19						
17 4th 22						
OT						

主審:Referee
佐藤 匠 (秋田)
副審:1stUmpire
佐々木 一也 (秋田)

テーブルオフィシャル:Table officials
増田高等学校男子バスケットボール部

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	阿部 優美香	CAP	39	6	9	3	0	4	×	菊地 泉	CAP	3	1	0	0	0
5	×	大野 真湖		18	0	6	6	4	5	×	北嶋 優奈		6	0	3	0	5
6	×	柴田 知恵		0	0	0	0	2	6	×	菅原 愛		21	0	7	7	3
7	×	加藤 杏香		9	0	3	3	3	7	×	澤井 葉月		5	1	1	0	1
8	×	宮野 茉恵		9	0	4	1	5	8	×	高橋 瑞葵		-	-	-	-	-
9	/	最上 朝香		0	0	0	0	1	9	/	三浦 奈菜		10	1	2	3	4
10		松浦 まりん		-	-	-	-	-	10	/	杉田 玲奈		0	0	0	0	0
11	/	加藤 舞		7	1	1	2	1	11	/	進藤 早友果		8	0	3	2	0
12		柿崎 瑞季		-	-	-	-	-	12		高桑 美咲		-	-	-	-	-
13		和泉 華音		-	-	-	-	-	13		瀧田 真帆		-	-	-	-	-
14		佐々木 怜音		-	-	-	-	-	14		伊勢 結菜		-	-	-	-	-
15		高橋 美希		-	-	-	-	-	15		伊勢 玲菜		-	-	-	-	-
16		佐藤 愛莉		-	-	-	-	-	16		門間 優香		-	-	-	-	-
17		長澤 のぞみ		-	-	-	-	-	17		ナイハルカ・ハラニセ		-	-	-	-	-
18		齊藤 楓		-	-	-	-	-	18	×	北嶋 玲奈		20	4	2	4	4
19		佐藤 直		-	-	-	-	-	19		近藤 萩		-	-	-	-	-
20		佐々木 理沙		-	-	-	-	-	20		寺田 楓		-	-	-	-	-
21		松田 有紀		-	-	-	-	-	21		斉藤 樹里		-	-	-	-	-
コーチ		樋渡 真裕							コーチ		松岡 圭一						
Aコーチ		熊谷 傳裕							Aコーチ		丸谷 沙弥加						
合 計				82	7	23	15	16	合 計				73	7	18	16	17

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

女子決勝は、湯沢翔北と秋田和洋の対戦となった。両チームマンツーマンディフェンス。先制したのは湯沢翔北。#5大野が相手のファウルを誘い3点プレー、#4阿部のスリーポイントも決まり、幸先の良いスタートを切った。13対1と湯沢翔北がリードしたところで、秋田和洋がたまたまタイムアウトを取る。その後、秋田和洋は#6菅原が果敢に1対1を仕掛けゴール下で得点を重ね巻き返し、第1ピリオド26-16の10点差で終える。

第2ピリオド開始早々、湯沢翔北#4阿部、#8宮野のジャンプシュート、また、#4阿部の1対1で加点し、秋田和洋を突き放しにかかる。対して秋田和洋は#18北嶋のスリーポイント、#9三浦のドライブで粘りを見せ、逆に39-32の7点差まで詰め寄り前半を終了。

第3ピリオド、両者マンツーマンディフェンスでスタート。一進一退の攻防が続く中、湯沢翔北の#4阿部がスリーポイントを沈め11点差とする。秋田和洋は我慢の時間帯であったが、#9三浦のスリーポイント、#5菅原のバスケットカウントでジワジワと点差を縮め、54-49の5点差とした。ここでたまたま湯沢翔北がタイムアウトを請求。ハーフコートのゾーンディフェンスに変え、相手の攻撃を抑え、#8宮野のミドルシュート、#4阿部のスリーポイントシュートで突き放し、65-51で第3ピリオドを終える。

最終ピリオド、追い上げを図る秋田和洋は、#11進藤の巧みなパスワークで#18北嶋や、#7澤井のスリーポイントをアシストする。流れは秋田和洋、残り6分、#6菅原がフリースローを決め69-68の1点差とした。ここで湯沢翔北はディフェンスをマンツーマンに戻し、秋田和洋にプレッシャーをかけオフェンスのリズムを崩しミスを誘う。そして、湯沢翔北は#11加藤のスリーポイント、ドライブなどで加点し、相手の追撃を許さず82-73。3年連続3回目(湯沢北を含めると5年連続13回目)の優勝を果たし、全国大会の切符を手にした。